

5 暮らしと大和川



▲天理市前栽町のファブリダム

(1) 吉野川分水

1 奈良盆地の中にもダムが？

奈良盆地を流れる大和川には、いろいろな所に用水路に水を取り入れるゴムでできた「ファブリダム」という井せきがつく

られています。これは、吉野川の水を大和川に送る吉野川分水の仕事の一つとしてつくられました。

2 吉野川分水は奈良盆地の悲願

奈良盆地を流れる大和川の水は少なく、田畑に入れる水のほとんどを1万こ以上あったといわれるため池にたよっていました。「大和豊年米食わず」といわれるぐらい、水不足で苦しんでいました。南を流れる豊かな吉野川の水も引けないものかということは奈良盆地の農民の夢でした。今から約300年前、江戸時代の御所市長柄の庄屋高橋佐助など、様々な人が吉野川の水を奈良盆地に引こうと計画しました。

しかし、吉野川の水は、和歌山の人にも大切な水だったので。和歌山の人には洪水に、少ない時には干ばつに苦しんできました。と中で奈良盆地に水を取られると、今度は和歌山が水不足になってしまいます。

このことから、吉野川分水は、奈良盆地とともに和歌山平野の水不足をも解決する総合計画でなければ実現しないということになったのです。

大和豊年米食わず

大和で米が豊年であれば他の地域では雨が多すぎ、他の地域が豊年なら大和は干ばつで苦しむという、大和の農業用水不足を言い表した言葉。



▲1929(昭和4)年4月 大阪毎日新聞



▲水のとり入れ口がある 下淀頭首工(大淀町)

一反

田畑の広さで、1000m²、300坪の広さをいう。

3 悲願をかなえる猿谷ダム

1949(昭和24)年「十津川・紀の川総合開発計画」は、大和川・紀伊両平野の農業用水不足をなくすだけでなく、水力発電や上水道用水、工業用水を送るという計画にすることで話し合いがまとまりました。1957(昭和32)年に、まず十津川の猿谷ダムが完成し、南へ流れるはずの水が北の吉野川に流れるようになりました。これで奈良盆地へ吉野川分水が送られると、和歌山県に来る水がへってしまうという心配がなくなりました。

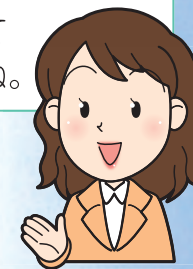
4 干ばつがなくなる

奈良盆地の大和川には、6月2日から9月20日まで、吉野川分水が流されます。農家の人は、1年に田1反あたり4000円を支払えば、必要な水を田に入れることができます。吉野川分水が来るようになって、奈良盆地では、干ばつになることがなくなりました。

和歌山県でも、西吉野頭首工から水を入れ、農業用水と工業用水に水を利用し、農業や工業の発展につながっています。

大和平野土地改良区は、工事の後、農家の分担金で、ダムや工事の借金を返したり、下流頭首工からの取水の仕事をしたり様々な設備の修理をしたりしています。

みなさんの町には、吉野川分水の水はどこを流れていますか。調べてみてくださいね。



*土地の面積の単位
1反=300坪=約991.7m²



猿谷ダム(五條市)▶



▲東西分水工(御所市)



わたしたちが
使っている
水道水は、
どこからきて
いるのかしら。



(2) 山と大和川

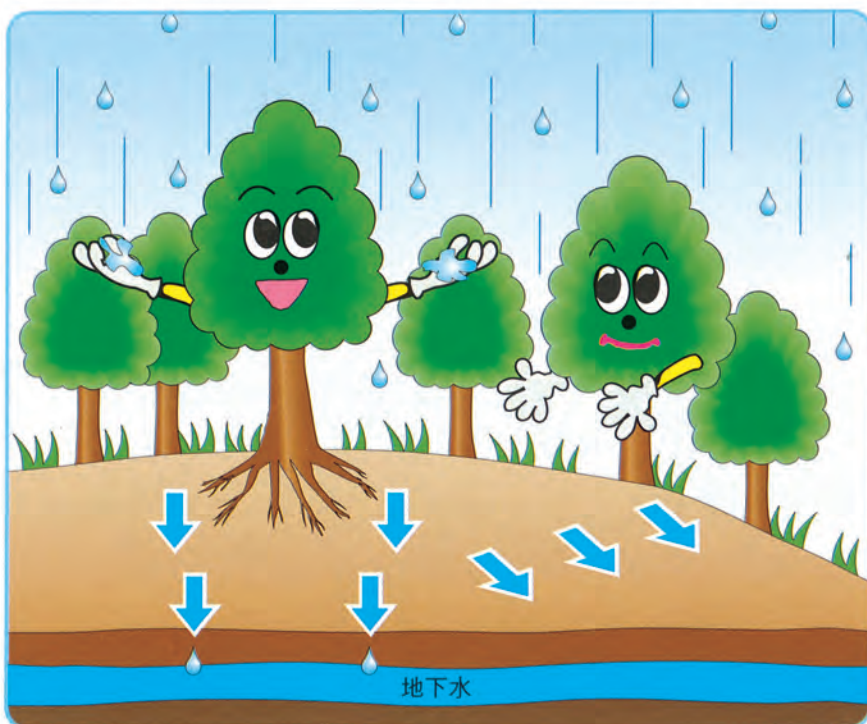
1 森林を守ろう

わたしたちが使っている水はどこからくるのでしょうか。それは川の水であり、山地にふった雨です。

森林は、ふった雨が一度に流れていかないように、地面の落ち葉や下草、土などが水をスポンジのようにすいこんでたくわえます。やがて水は地下にしみこんで地下水となり、少しずつゆっくりと川などに流れていきます。そのため、洪水や水不足をやわらげるはたらきがあります。

さらに森林には、大雨のときに土やすなが流れ出ることを防ぐはたらきもあります。

このようなはたらきから、わたしたちは森林を大切に守っていかねばなりません。



森林のはたらき

森林は、水げんとしての
はたらきのほかに、生き物
に食べ物やよいすみかをあ
たえたり、空気をきれいに
したりします。また、木は
木材となり、建物や木製品
の原料になります。

地下水は、
長い年月を
かけて、川や
池、湖から
海へ流れて
いくのね。



2 大和川とダム

大和川流域には、大阪府の滝畑ダムや奈良県の初瀬ダム、天理ダムなどのいくつかのダムがあります。

ダムのおもなはたらきは、水を確保し、必要なときにいつでも使えるように水を送ることです。また、ふった雨が一度に川に流れこまないようにダムにためて、少しずつ川に流すことで水害を防いでいます。

大和川とその支流にはありませんが、放流される水がもつ大きなエネルギーを電気に変える、発電用のダムもあります。

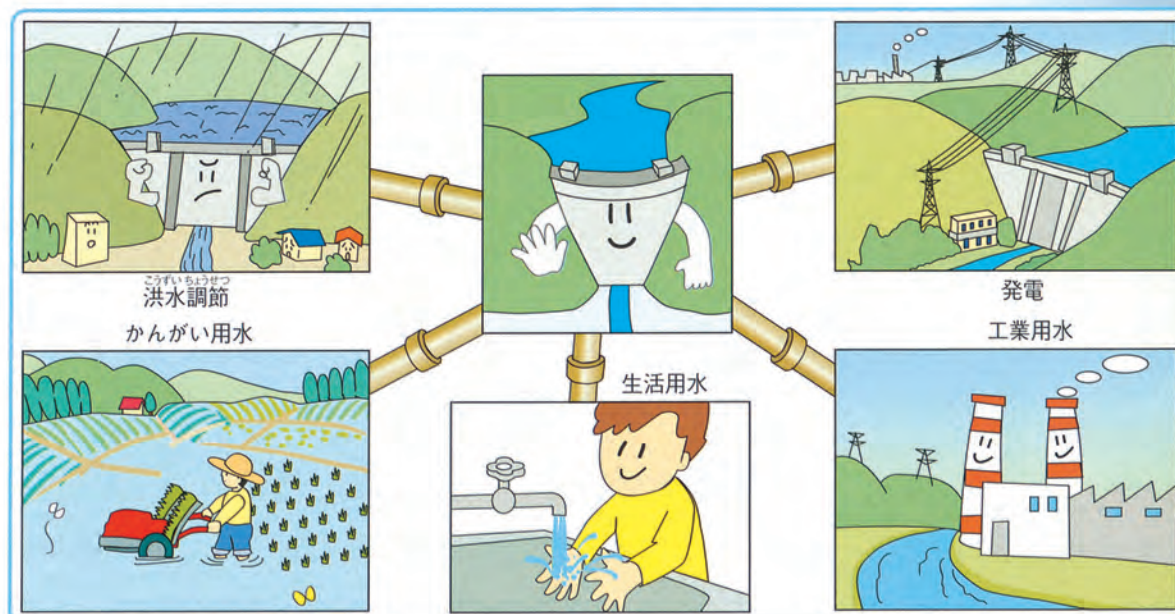
大和川流域にも、
ダムが
あるんだね。



▲滝畑ダム



▲初瀬ダム



▲ダムのおもなはたらき

できた野菜やくだものは、
おおさかきょうと
大阪市や京都市
などの人口の
多い都市に
送られているよ。

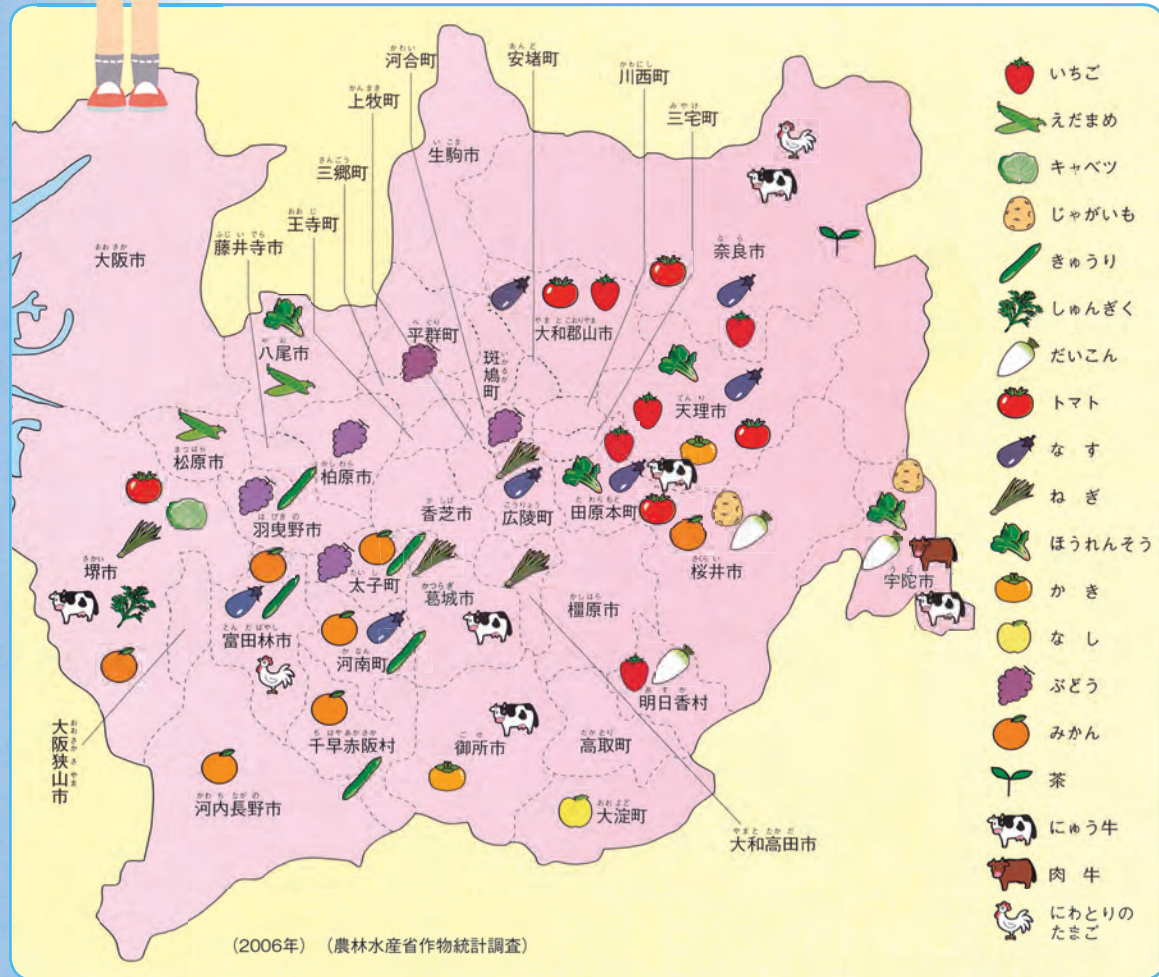


りゅういき (3) 大和川流域の農業や漁業

1 大和川流域の農業

大和川流域の市町村では、米作りのほかに、^{ていち}低地ではいちごやほうれんそう、^{やさい}トマトなどの野菜、山地ではかきやぶどうなどのくだもの、茶などが作られています。

大和川のまわりで生産されるおもな農産物



2 大和川と大阪わんの漁業

大阪わんでは、タコやチヌ（クロダイ）が名物です。

大和川河口には貝がわいてくるぐらいたくさんいて、ヤマトシジミやアサリが有名でした。堤防の下で舟を借り、川のまん中にこいで行き、魚を釣って楽しむ人もたくさんいました。



▲出島漁港で、お話をきかせていただいた漁師の高田利夫さん



▲1960(昭和35)年、堺市三宝の貸し舟

大浜の海岸には潮干狩りのお客がたくさん来しました。

堺市の海岸はとてもきれいで、水族館や潮湯（海水をわかしたお風呂）、魚料理の旅館がたちならんで、にぎやかでした。1960年代に、堺・泉北臨海工業地のために海が埋められ、大和川の水質が悪くなり、大阪わんは昔ほどゆたかな漁場ではなくなりました。しかし、漁師さんたちは、「魚の子どもは河口で育つ。川と海がきれいになれば、魚がもっとふえる」と努力を続けて来られました。

よみがえりつつある海に魚がもどっています。河口ではウナギの稚魚（卵からかえった小さな魚）がたくさんとれ、静岡県浜名湖に送られています。

土曜日と日曜日、大阪わんでとれた新せんなタコやアナゴ、サザエやエビ、シャコのお店や屋台がならぶ「とれとれ市」が人気です。



▲出島漁港・とれとれ市



▲▼金魚池



▲全国金魚すくい選手権大会

3 ^{やま とこおりやま} 大和郡山市の金魚の養しよく
^{なら} 奈良県大和郡山市は、^{いじょう} 300年以上前から金魚の生産がさかんで、^{せいさん} 日本各地に送っています。

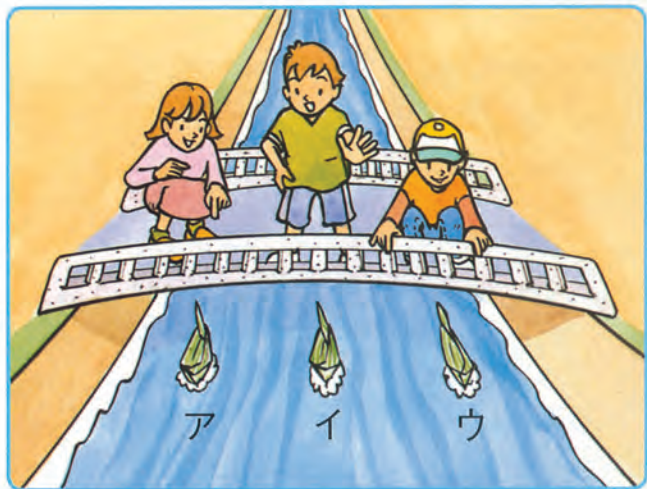
大和郡山市には、^{のうぎょうよう} 農業用のため池がたくさんあり、ため池に発生するミジンコなどが金魚のえさにちょうどよいなどの条件がありました。

昔は、大和川の支流の^{しりゅう} 富雄川や^{とみお} 佐保川の水をため池に引きこんで、^{せいさん} 金魚を生産していましたが、最近、川の水がよごれてきたことなどから、いど水や水道の水を金魚をかう池に引いています。

大和郡山市では、金魚の品びょう会や全国金魚すくい選手権大会などを開き、市の特産物としての金魚を多くの人に知ってもらうくふうをしています。

クイズ ^{はや} 流れの速いところはどこ？

右の絵のように、まっすぐに流れている川の橋の上から、ささ舟をつかって流しました。いちばん速く流れるささ舟は、どれかな？



(4) ^{しゅげんどう} 修験道と大和川

^{えんのおづか} 役小角 (役行者) と大和川の清流



▲^{みょうけん たま} 妙見の滝

大和川の支流の上流には、^{しりゅう} 役行者 (小角) が開いたと言われる滝の修行場が多くあります。千年以上過ぎた今まで、役行者が始めた修験道はひきつがれ、今も悟りを求め修行者がきびしい修行に取り組んでいます。

役小角 (役行者)
 修験道を始めたといわれ、うまい尊敬されている。全国各地に役小角が開いたと言われる寺や修行場がある。

1000年以上もの間、大和川の源流の滝は、修験者の修行の場となってきたんだね。修験者は、滝の修行だけでなく、山での修行も積み重ねたようだよ。



▼は滝があるところ